

### 教育行政官に向けた研修（通称：スーパーバイザー研修）

2018年6月1日の新学年から導入される2年生の新カリキュラムに関し、2017年12月に全国の教育事務所（州・管区教育事務所、郡教育事務所、タウンシップ教育事務所）の523名を対象に、ヤンゴンで2日間のスーパーバイザー研修を行いました。

研修では、1年生の新カリキュラム導入から約半年が経ち、学校現場でどのような効果や課題が見られるか、その課題にどのように対応しているかについて、参加者間で共有しました。新カリキュラムの導入により、子どもたちが非常に積極的に授業に関わるようになり、楽しく学習に取り組んでいること、またそれによって欠席者も減少していることが報告されました。また、多くの教員が自身の授業を変えたいという意欲を持ち、新カリキュラムの実施に真剣に取り組んでいる様子が報告されました。工夫して教具を作成した教員が、その写真や動画を撮影し、SNSの教員グループ内で共有し、情報交換しているという報告もありました。（2018年7月5日現在、「1年・2年新カリキュラムサポートグループ」がフェイスブックで立ち上がっており、18万8千余名のメンバーを擁しています。）

一方で、教科書・教師用指導書の配布の遅れがあったことに加え、教具の不足や教員の不足により1クラスあたりの児童数が多いために活動をうまく実施できない学校がある等、教科書・指導書だけでは解決できない課題についても指摘がありました。

加えて本研修では、2年生の新カリキュラム導入に向けた現職教員研修の準備も行われました。昨年の1年生の新カリキュラム導入研修の反省を踏まえ、各地域でより効果的な研修運営・監理のための議論がなされました。さらに、新学年開始後、各教育事務所がどのように学校をモニタリング・支援すると効果的なのかを議論し、学校年度を通して教師を支援する必要があることも再確認し、実りの多い研修となりました。



活発に議論を行う参加者



ビデオ教材を使った授業

## 2年生新カリキュラムの導入研修

1年生新カリキュラム研修では、ミャンマー教育省の判断により、1年生を担当する予定の教員と各学校からの代表教員1名のみを対象として研修を行いました。全ての教員が将来新初等カリキュラムを教えることができるよう、また、教員の異動があっても各学校に研修受講者が残るよう、今回は全ての小学校教員約25万人を対象に研修を行いました。昨年と同様、中央レベル、州・管区レベル、郡レベル、タウンシップレベルの4段階で、2018年1月から5月にかけて実施しました。

研修は、各教科の授業ビデオを活用した新しいカリキュラムの理解、児童の学習活動の体験、教員間によるマイクロティーチング、新2年生になる児童が参加する模擬授業等、実践的な活動を重視しました。昨年の研修では、新しい授業スタイルのビデオを見て頭では理解できるものの、実践してみると教師が一方的に説明する従来型の授業になりがちな参加者が多くみられましたが、今回の研修では特に若手の教員を中心に新しい授業スタイルになじんできているケースも多く、なかには驚くほど効果的な授業を展開する先生もおられました。模擬授業に参加してくれた児童が、その日初めて会った先生であるにも関わらず、すぐに打ち解けて積極的に学んでいる様子も印象的でした。まだまだ新しい授業スタイルが全教員に浸透しているわけではなく、教科書を読み上げるだけの教師や、ペアワークやグループワークをとにかく取り入れなければならないという知識が先行してしまい、あまり意味のない活動を取り入れてしまう教師も見られましたが、研修や実践を通して新カリキュラムが求める新しい授業スタイルが少しずつ浸透していると実感しています。

酷暑の中、各レベルで14日間に及ぶ研修でしたが、後半になってもだれた雰囲気はなく、参加者たちは非常に熱心に研修に参加していました。



旧来の授業にはない創造作業の様子



児童に折り紙を教える様子

教師教育コンポーネントの活動状況（2018年7月5日）

研修の様子を視察したミョー・テイン・ジー教育大臣からは、「研修を受ける先生たちもただ座って聞くのではなく、実践的な活動を行う生き生きとした姿がみられてよかった」とのコメントをいただきました。

3年生以降の研修もより効果的に行えるよう、ミャンマー教育省と協力して企画していきたいと思います。

文責：広報担当 小菅 恵理子